

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- ・生徒一人一人の自主性・自立性を伸ばし、豊かな人間性と人格の形成を目指す学校
・社会人として必要な知識と教養を身に付けた人材を育成し、保護者や地域の期待に応え、地域とともに発展する学校
・普通科及び普通科音楽コースの生徒が、学習、文化・芸術活動等で相互に協力し合う活力ある学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

＜新しい時代に求められる資質や能力の育成＞

- ・自己実現・地域や社会の人、もの、ことに関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域社会の特徴やよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付く
・自己実現・地域や社会の人、もの、ことと自分自身との関わりから問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ・表現する力を身に付ける。
・地域や社会の人、もの、ことについての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

＜多様な視点での学習評価の在り方＞

- 週1回の学年会議で学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。
(1) 計画書、中間・最終発表の成果、作成した資料、振り返りシート等を評価の対象とする。
(2) 中間発表の個人振り返りシートを過程の評価として加味する。
(3) 最終発表やポスターセッションの審査を努める保護者や地域の外部協力者による評価シートを第三者評価として加味する。

＜主体的・対話的で深い学びの実現＞

- 学習者の学びの成長を把握する。
(1) 探究過程において自他を尊重しあい、討論や質疑の様子など主体的に学ぶ態度や言語活動等を評価する。
(2) 取材ノートや振り返りシート、作品などの制作物、それらを計画的に集積したポートフォリオなどを評価の対象とする。

生徒の実態

- ・落ち着きがあり、学校生活を前向きに捉える生徒が多い。一方で不登校傾向の生徒もいる。学習意欲の高い生徒もいるが、支援を必要とする生徒もいる。

子供たちの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- ・中学校との連携により指導の継続性
・少人数習熟度別授業の実施
・グループエンカウンター等
・生徒との個別面談、ケース会議

目指す生徒の姿

- ・自分と向き合いながら高校生活を送ることができる。
・他者を思いやりつつ、ともに成長できる。
・未来を見ずして日々努力できる。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

○総合的な探究の時間

＜第1・2学年＞

(1) 知識及び技能

大洗町の各産業の現状を理解する過程において課題解決に必要な知識や技能を身に付け、地域や社会が人々の関わりや協働によって支えられていることに気付く。

(2) 思考力、判断力、表現力等

課題解決に向けて仮説を立て、調査収集した情報をグループワークで分析し意見を論理的にまとめ・表現する力を身につける。

(3) 学びに向かう力、人間性等

地域の担い手としての意識を持ち探究活動に主体的・共同的に取り組むとともに、互いを理解し協力しながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

＜第3学年＞

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現

(2) 学びに向かう力、人間性

- ・他教科で育成を目指す資質・能力との関連を重視する
・地域や社会との関わりを重視する

学習活動、指導方法等

○総合的な探究の時間を含む、全教科・全科目横断的な指導

- ・効果的な言語活動の充実を図る。
・ICT機器を活用した、主体的・対話的で深い学びの実践
・キャリア教育(インターンシップ)の充実
・生徒の課題意識を連続的に、深化させる支援
・個に応じた指導の工夫
・諸感覚を駆使する体験活動の重視
・協働的な学習活動の充実
・教科・科目等との関連的な指導の重視
・対話を中心とした個別支援の徹底
・言語活動による体験の意味と自覚化と深化

○少人数によるグループ別探究学習

- (1) 実物に触れる体験活動や取材活動による情報の収集
(2) 地域や社会や実生活と自己との関わりの中にある問題や事象を考える。
(3) 地域や社会で活躍する人材による講演や交流により、身近な事象や課題を自分との関係で捉える。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- ・総合的な探究の時間推進委員会<11名:教頭・各学年主任・教務主任・各学年担当者(2)>
新学習指導要領の動向を鑑み、内容や評価の改善に取り組む。
・探究ワーキングチーム(目安として毎月1回)<4名:教務主任・各学年主任>
運営方針や指導方法、評価の観点、進捗状況について情報共有と進捗状況の確認を行う。
・関係機関等との連携
大洗町まちづくり推進課、大洗町商工会、大洗町観光協会、茨城大学、アクアワールド大洗、大洗海の大学、いこいの村溜沼、大洗町生涯学習課、大洗原子力研究所、鹿島臨海鉄道株式会社、大原学園、大洗町社会福祉協議会